

海外現地法人の動向（海外現地法人四半期（4～6月期）調査） 要 旨

平成16年10～12月の見通し(DI)は、

- ・ 売上高先行きDIは、全地域でプラス水準であるものの、前期比は、世界経済の減速懸念から欧州を除く全地域で3期ぶりに悪化。ASEAN4、NIES3、中国は、電気機械、輸送機械の影響で悪化。
- ・ 設備投資の先行きDIは、全地域でプラス水準であるものの、ASEAN4、中国で悪化。従業者の先行きDIは、中国の悪化が目立つ。

平成16年4～6月期の実績は、

- ・ 売上高は、アジアが好調で9期連続増加。電気機械、輸送機械が好調で全地域で増加。中国はデジタル家電が好調な電気機械等の影響で大幅増加を持続。
- ・ 設備投資はASEAN4が大幅に増加。中国は投資抑制策の影響等から7期ぶりに減少。従業者は中国が好調を持続。欧州も14期ぶりに増加。

今回調査のポイント

調査時点：平成16年8月中旬

1. 売上高先行きDI¹の前期比は、世界経済の減速懸念から12.1%ポイントと3期ぶりに悪化。先行きDI水準は、20.1%ポイントとプラス水準を維持。
売上高実績(トバース)は、前年同期比15.5%増と9期連続増加と好調を持続。

先行きDIの前期比は、原油高や米国経済の鈍化の兆し、中国²の金融引き締め等による世界経済の減速懸念から、欧州を除く全地域で悪化。特にアジアが悪化。電気機械、輸送機械等の悪化からASEAN4³は大幅に悪化。NIES3⁴、中国も悪化。先行きDI水準は、20.1%ポイントと全地域でプラス水準。

実績は、全地域で引き続き増加。特にアジアは9期連続増加。デジタル家電が好調な電気機械の増加等から中国は大幅増加が持続。ASEAN4は輸送機械等の影響で増加し、NIES3も増加。欧州は3期連続2桁増と堅調に回復。

2. 設備投資先行きDIの前期比は、9.0%ポイントと3期ぶりに悪化。先行きDI水準は、11.3%ポイントとプラス水準を維持。実績は前年同期比7.6%増と6期連続増加。

先行きDIの前期比は、全地域で悪化。特にアジアは2桁の悪化。ASEAN4は輸送機械等の悪化から、中国は電気機械等の悪化から、ともに悪化。
先行きDI水準は11.3%ポイントとなり、引き続き全地域でプラス水準。

実績は6期連続増加。アジアは4期連続大幅な増加。特にASEAN4は輸送機械、電気機械が好調で同58.0%増と大幅増加。一方、中国は金融引き締め等の影響で7期ぶりに減少。

3. 従業者先行きDIの前期比は、4.2%ポイントと3期ぶりに悪化。先行きDI水準は引き続きプラス水準。実績は前年同期比4.9%増と9期連続増加。

先行きDIの前期比は、NIES3を除き全地域で悪化。特にアジアは悪化。なかでも中国は電気機械等の悪化から同6.9%ポイントと悪化。
先行きDI水準は、欧州、NIES3を除く全地域でプラス水準。

実績は9期連続増加。アジアは引き続き増加。特に中国は電気機械等が好調で同14.2%増と9期連続大幅な増加。欧州は14期ぶりに増加に転じた。一方、北米は引き続き減少。

注) * 1 : DIの調査期間を当期から3ヶ月に変更（従前6ヶ月の調査期間を、「現状判断」、「先行き」に分割し、それぞれ3ヶ月で調査）

・ DI = 増加と回答した企業の割合 - 減少と回答した企業の割合

・ 先行きDIの前期比 = 先行きDI - 前期DI

〔	前期DI	: 平成16年4～9月の見通し
	現状判断DI	: 平成16年7～9月の見通し
	先行きDI	: 平成16年10～12月の見通し
〕		

* 2 中国：香港を含む。 * 3 ASEAN4：インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア

* 4 NIES3：シンガポール、台湾、大韓民国

1. 売上高

売上高先行きD Iの前期比は、12.1%ポイントと3期ぶりに悪化。
先行きD I水準は、20.1%ポイントと、プラス水準を維持。

先行きD Iの前期比は、原油高や米国経済の鈍化の兆し、中国の金融引き締め等による世界経済の減速懸念から、欧州を除く全地域で悪化。特にアジアが悪化。電気機械、輸送機械等の悪化からASEAN4は大幅に悪化し、NIES3、中国も悪化。

先行きD I水準は、全地域でプラス水準を維持。

売上高(ドルベース)は、前年同期比15.5%増と9期連続増加と好調を持続。

全地域で引き続き増加。アジアは9期連続増加。中国はデジタル家電が好調な電気機械の増加等から大幅な増加が持続。ASEAN4、NIES3も増加。欧州は3期連続2桁の増加と堅調に回復。

(参考) 海外経済は、アメリカの景気は拡大している。アジアでは中国、タイ、マレーシア、台湾、シンガポールで景気が拡大し、韓国は景気が回復している。ユーロ圏は景気が緩やかに回復している。(月例経済報告(9月)より抜粋)

(1) 売上高先行きD Iの前期比は、12.1%ポイントと3期ぶりに悪化に転じた(前期D I 32.2 先行きD I 20.1)。D Iの水準では、現状判断(16.7-9月)22.9%ポイント、先行き(16.10-12月)20.1%ポイントと、20%ポイント台のプラス水準を維持(1表、1図)。

・ 先行きD Iの前期比は、原油高や米国経済の鈍化の兆し、中国の金融引き締め・投資抑制策の影響等による世界経済の減速懸念から、欧州を除く全地域で悪化。アジアでは同15.9%ポイントと悪化。なかでも、ASEAN4は電気機械等13業種中12業種で悪化し、同21.5%ポイントと大幅に悪化。また、電気機械、輸送機械の悪化から、NIES3(同18.3%ポイント)と中国(同11.7%ポイント)は、ともに悪化。北米も輸送機械の悪化から同8.2%ポイントと悪化。一方、欧州は電気機械の改善から同1.2%ポイントと改善。

先行きD Iの水準では、全地域で引き続きプラス水準(2図)。

(2) 売上高実績(ドルベース)は、前年同期比15.5%増と、9期連続増加と好調を持続(1表、1図)。

・ 全地域で引き続き増加。特にアジアは9期連続増加。なかでも、中国は、デジタル家電等が好調な電気機械をはじめ全業種で引き続き増加し、同31.6%増と5期連続30%台と好調を持続。ASEAN4は好調な輸送機械(特にタイが好調)をはじめ、電気機械等の増加から同15.3%増、NIES3は電気機械等の増加から同22.6%増とともに増加。また、北米は好調な輸送機械に加え、電気機械が増加に転じ、引き続き増加。欧州は輸送機械、電気機械等の増加から3期連続2桁の増加と堅調に回復(3図)。

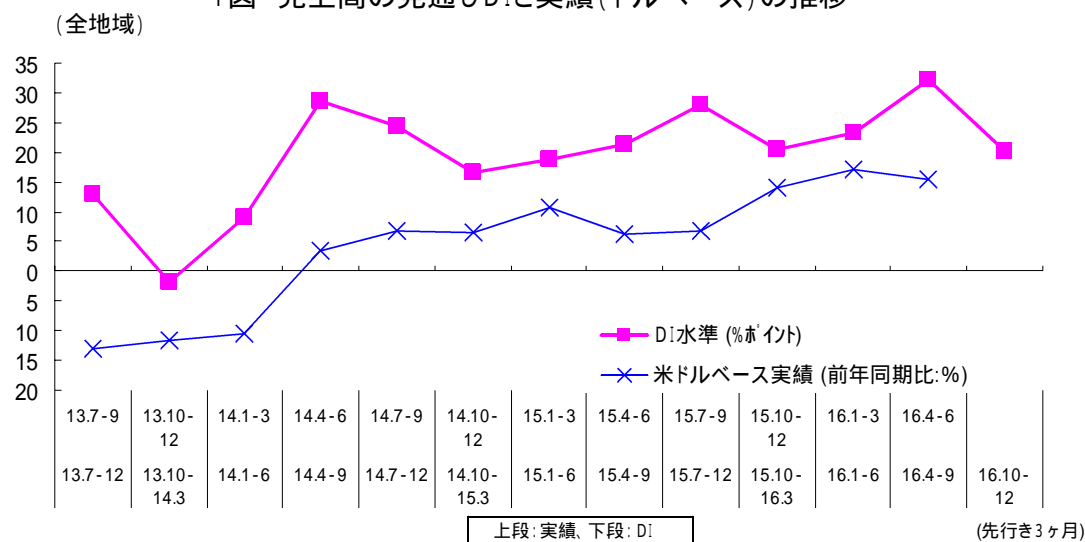
1表 売上高の地域・主要業種別の先行きD I(平成16年10 - 12月)及び実績(平成16年4 - 6月期)

(単位:前年同期比%、前期比%ポイント)

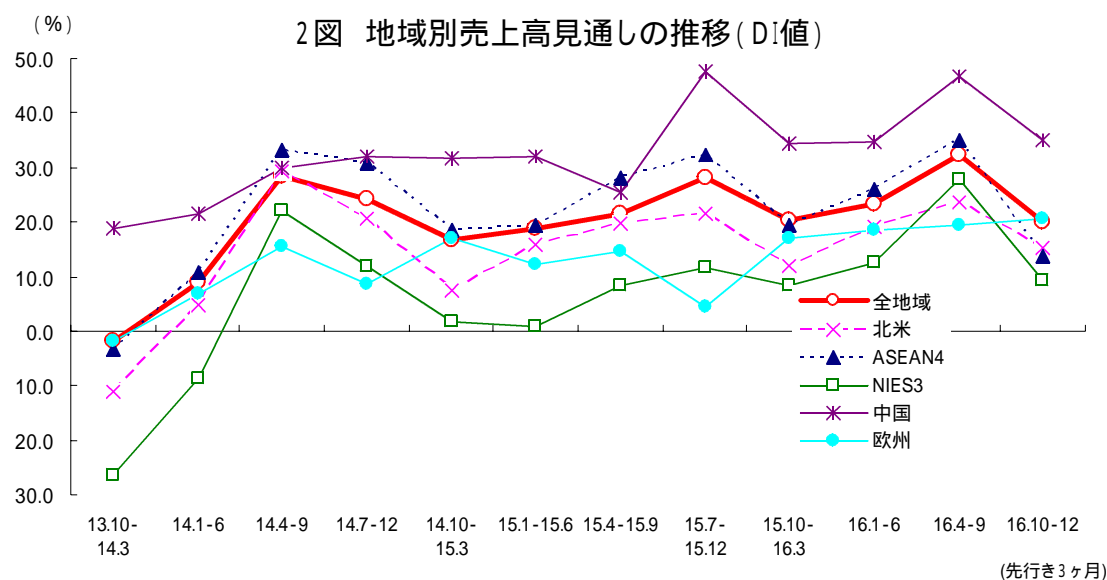
	計(地域・業種)	北米	アジア	ASEAN4 ³	NIES3 ⁴	中国(香港を含む)	欧州
D I(前期D I(現状判断D I) 先行きD I)	32.2(22.9) 20.1	23.5(16.3) 15.3	37.6(28.0) 21.7	35.1(24.6) 13.6	27.7(11.2) 9.4	46.7(38.5) 35.0	19.5(2.6) 20.7
D I(前期比)	12.1	8.2	15.9	21.5	18.3	11.7	1.2
実績(前年同期比)	15.5	8.7	22.6	15.3	22.6	31.6	18.8

	輸送機械	電気機械	一般機械	化学
D I(前期D I(現状判断D I) 先行きD I)	32.3(16.6) 19.4	32.2(22.1) 18.3	34.0(26.7) 30.4	36.9(20.0) 23.8
D I(前期比)	12.9	13.9	3.6	13.1
実績(前年同期比)	13.6	14.6	29.4	21.5

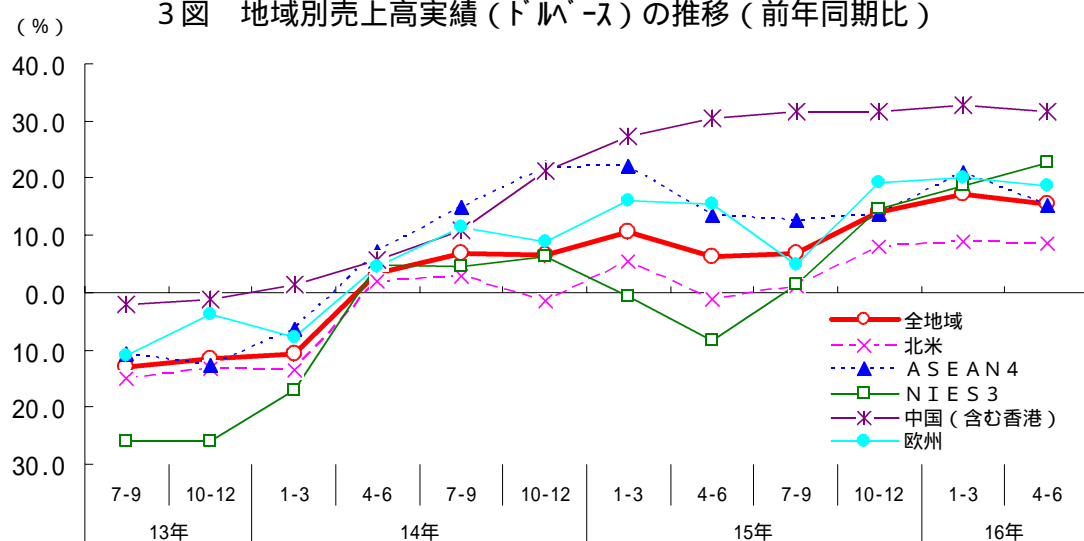
1図 売上高の見通しDIと実績(ドルベース)の推移



2図 地域別売上高見通しの推移 (DI値)



3図 地域別売上高実績(ドルベース)の推移(前年同期比)



2. 設備投資額（土地を除く固定資産取得額）

設備投資額先行きDIの前期比は、9.0%ポイントと3期ぶりに悪化。
先行きDI水準は、11.3%ポイントと、プラス水準を維持。

先行きDIの前期比は、全地域で悪化。特にアジアは悪化。ASEAN4は輸送機械等の悪化から、中国は電気機械等の悪化のから、ともに悪化。
先行きDI水準は、引き続き全地域でプラス水準。

設備投資額の実績(ドルベース)は、前年同期比7.6%増と6期連続増加。

アジアは4期連続大幅な増加。特にASEAN4は輸送機械、電気機械が好調で同58.0%増と大幅な増加。中国は金融引き締め等の影響による電気機械の大幅な減少等から7期ぶりに減少。

(1)設備投資額先行きDIの前期比は、9.0%ポイントと3期ぶりに悪化（前期DI 20.3 先行きDI 11.3）。DI水準では、現状判断（16.7-9月）12.5%ポイント、先行き（16.10-12月）11.3%ポイントと、引き続きプラス水準を維持（2表）。

- 先行きDIの前期比は、全地域で悪化。特にアジアは同13.1%ポイントと悪化。そのうち、ASEAN4は輸送機械、電気機械等の悪化から同15.7%ポイントと悪化し、中国も輸送機械、電気機械の悪化から同12.1%ポイントと悪化。北米は輸送機械、欧州は電気機械及び輸送機械の悪化の影響から、ともに悪化。
先行きDIの水準は、引き続き全地域でプラス水準（4図）。

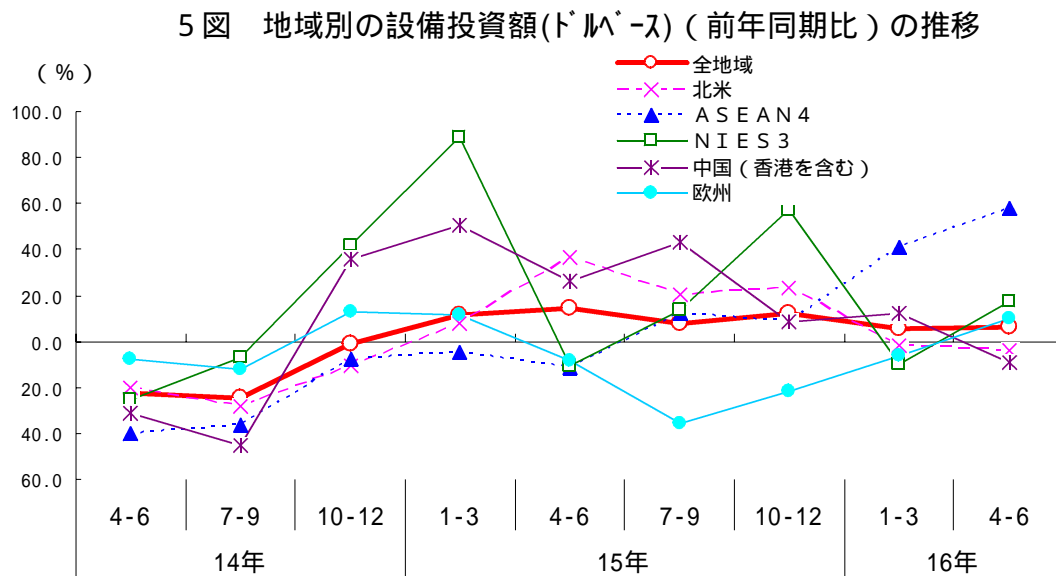
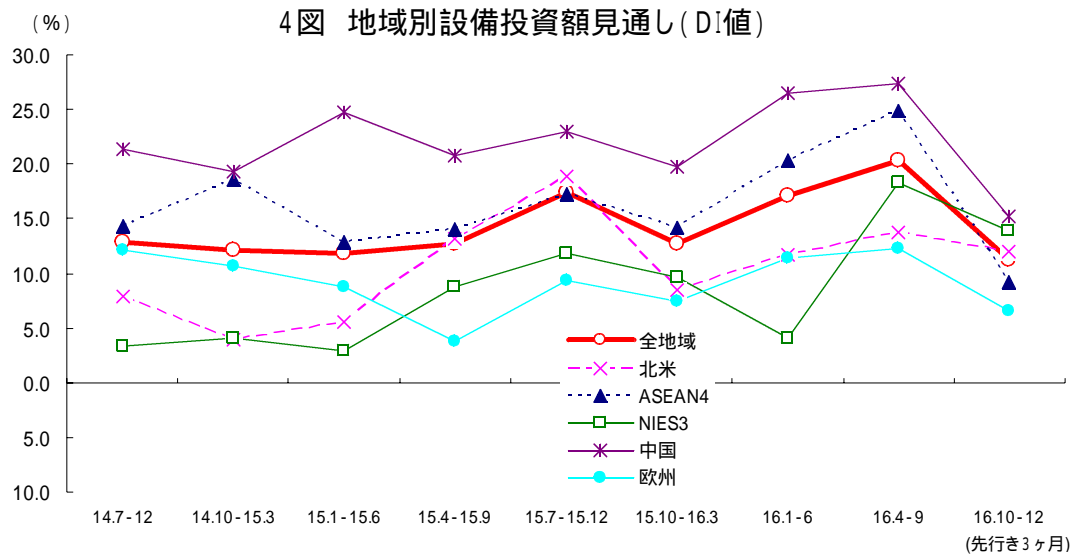
(2)設備投資額の実績（ドルベース）は、前年同期比7.6%増と6期連続増加（2表）。

- アジアは4期連続で大幅な増加。なかでもASEAN4は輸送機械が約2倍増（特にタイが好調）、電気機械も引き続き増加し、同58.0%増と大幅な増加。欧州は輸送機械が増加に転じ、一般機械も大幅に増加し、同8.2%増と5期ぶりに増加に転じた。
一方、北米は輸送機械の減少が響き、同5.9%減と2期連続減少。アジアでは、中国が金融引き締め・投資抑制策の影響による電気機械の大幅な減少等から、同7.4%減と7期ぶりに減少に転じた（5図）。

2表 設備投資額の地域・主要業種別の先行きDI(平成16年10 - 12月)及び実績(平成16年4 - 6月期)

(単位:前年同期比%、前期比%ポイント)

	計 (地域・業種)	北米	アジア	ASEAN4 ^{※3}	NIES3 ^{※4}	中国 (香港を含む)	欧州
DI(前期DI(現状判断DI) 先行きDI)	20.3(12.5) 11.3	13.8(6.7) 12.0	24.9(14.9) 11.8	24.9(15.7) 9.2	18.3(13.8) 13.9	27.3(16.0) 15.2	12.3(5.5) 6.6
DI(前期比)	9.0	1.8	13.1	15.7	4.4	12.1	5.7
実績 (前年同期比)	7.6	5.9	24.5	58.0	17.3	7.4	8.2
	輸送機械	電気機械	一般機械	化学			
DI(前期DI(現状判断DI) 先行きDI)	15.2(12.3) 8.0	23.3(13.8) 10.7	17.0(14.5) 16.2	18.4(13.4) 12.8			
DI(前期比)	7.2	12.6	0.8	5.6			
実績 (前年同期比)	1.7	27.9	72.4	4.7			



3. 雇用

従業者数先行きDIの前期比は、4.2%ポイントと3期ぶりに悪化。
先行きDI水準は、4.2%ポイントと、引き続きプラス水準。

先行きDIの前期比は、NIES3を除き全地域で悪化。特にアジアは悪化。なかでも中国は、電気機械等の大幅な悪化から同6.9%ポイントと悪化。輸送機械等の悪化から、ASEAN4、北米、欧州もそれぞれ悪化。

先行きDI水準は、欧州、NIES3を除く全地域でプラス水準。

従業者数(平成16年6月末)は、前年同期比4.9%増と9期連続の増加。

アジアは引き続き増加。特に中国は電気機械等の増加から、同14.2%増と9期連続大幅な増加。欧州も14期ぶりに増加に転じた。一方、北米は引き続き減少。

(1)従業者先行きDIの前期比は、4.2%ポイントと3期ぶりに悪化(前期DI 8.4 先行きDI 4.2)。DIの水準では、現状判断(16.7-9月)8.0%ポイント、先行き(16.10-12月)4.2%ポイントと、引き続きプラス水準(3表)。

- 先行きDIの前期比は、NIES3(ほぼ横ばい)を除き全地域で悪化。特にアジアは同4.7%ポイントと悪化。なかでも、中国は電気機械、一般機械等の悪化で、同6.9%ポイントと悪化。ASEAN4は輸送機械の悪化等から、同3.7%ポイントと悪化。また、輸送機械の悪化から、北米(同3.1%ポイント)、欧州(同3.2%ポイント)とも悪化。

先行きDIの水準では、欧州、NIES3(0.0%ポイント)を除く全地域でプラス水準。

(2)従業者数(期末)は241万人、前年同期比4.9%増と9期連続の増加(3表)。

- アジアは同7.0%増と引き続き増加。なかでも、中国は電気機械等13業種中10業種が増加し、同14.2%増と9期連続10%台の増加。欧州は輸送機械の大幅な増加等から同3.8%増と14期ぶりに増加に転じた。一方、北米は電気機械等の減少から引き続き減少。

3表 従業者数の地域・主要業種別の先行きDI(平成16年10-12月)及び実績(平成16年4-6月期)

(単位:前年同期比%、前期比%ポイント)

	計(地域・業種)	北米	アジア	ASEAN4 ^{1,3}	NIES3 ^{1,4}	中国(香港を含む)	欧州
DI(前期DI(現状判断DI) 先行きDI)	8.4(8.0) 4.2	3.6(2.5) 0.5	11.8(11.4) 7.1	6.6(8.7) 2.9	0.4(4.8) 0.0	22.0(17.1) 15.1	1.2(1.6) 4.4
DI(前期比)	4.2	3.1	4.7	3.7	0.4	6.9	3.2
実績(前年同期比)	4.9	1.3	7.0	1.7	2.2	14.2	3.8

	輸送機械	電気機械	一般機械	化学
DI(前期DI(現状判断DI) 先行きDI)	17.0(9.7) 5.4	9.5(9.8) 4.5	11.7(14.0) 13.6	6.8(8.2) 3.9
DI(前期比)	11.6	5.0	1.9	2.9
実績(前年同期比)	8.4	7.4	4.4	3.8